

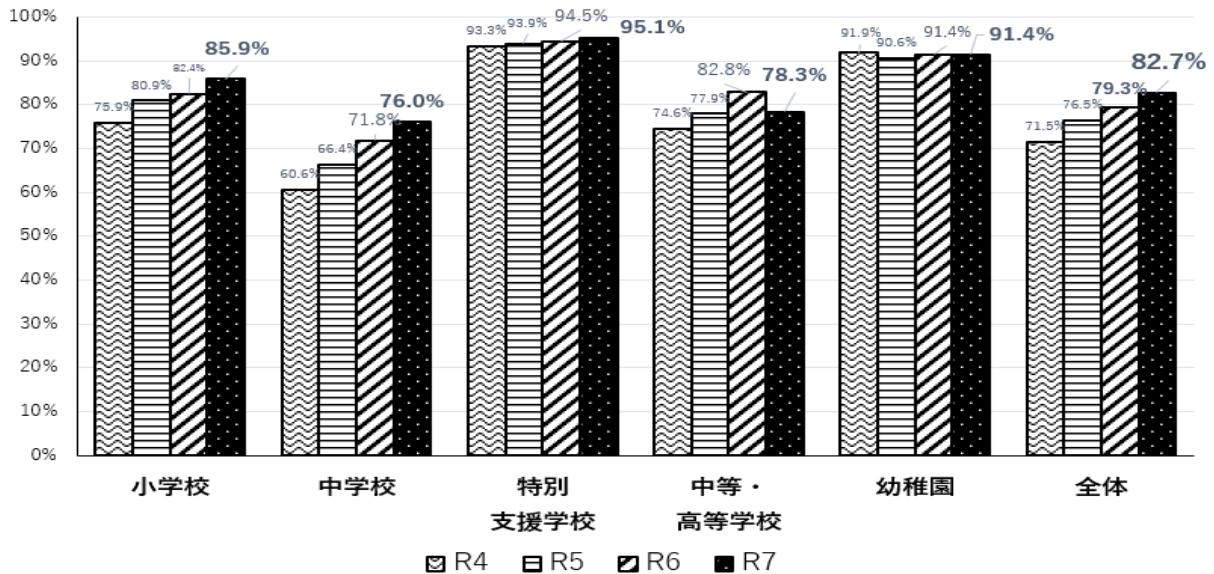
これまでの取組の状況

指標

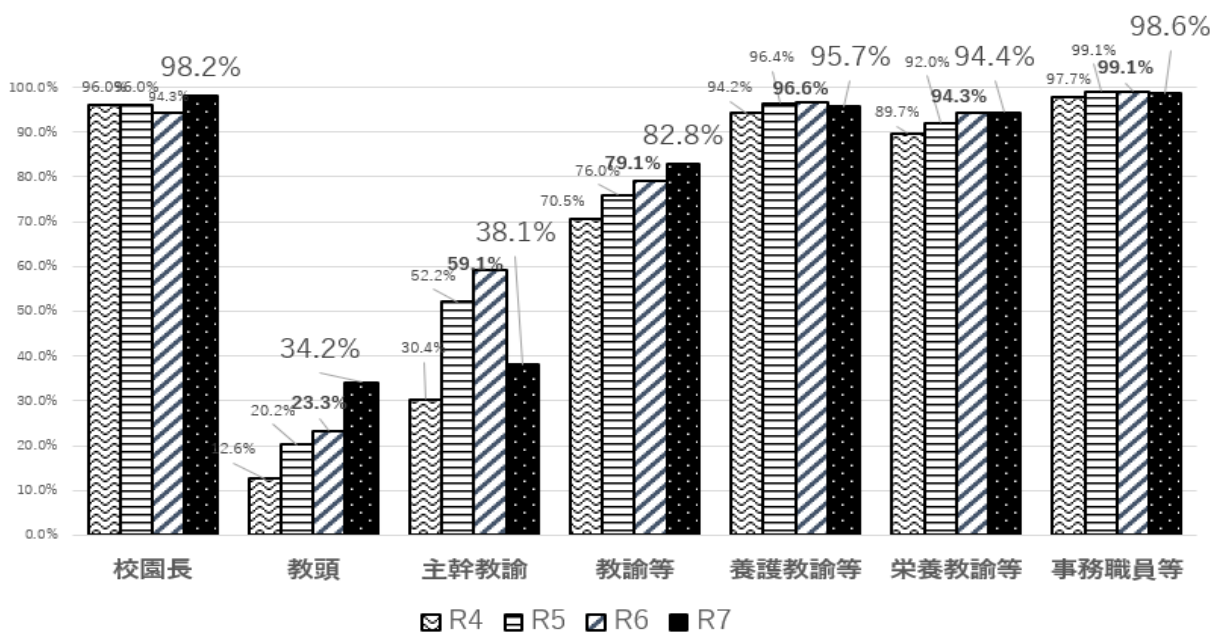
- 職業性ストレス簡易調査（厚生労働省）を改善する。
 - ① 1か月の時間外在校等時間について、45時間以下にする。
 - ② 1年間の時間外在校等時間について、360時間以下にする。
 - ③ 1年間14日以上有給休暇を取得する教職員を増やす。

< ①について >

校種別 時間外在校等時間 45 時間以下の割合（4～12月）



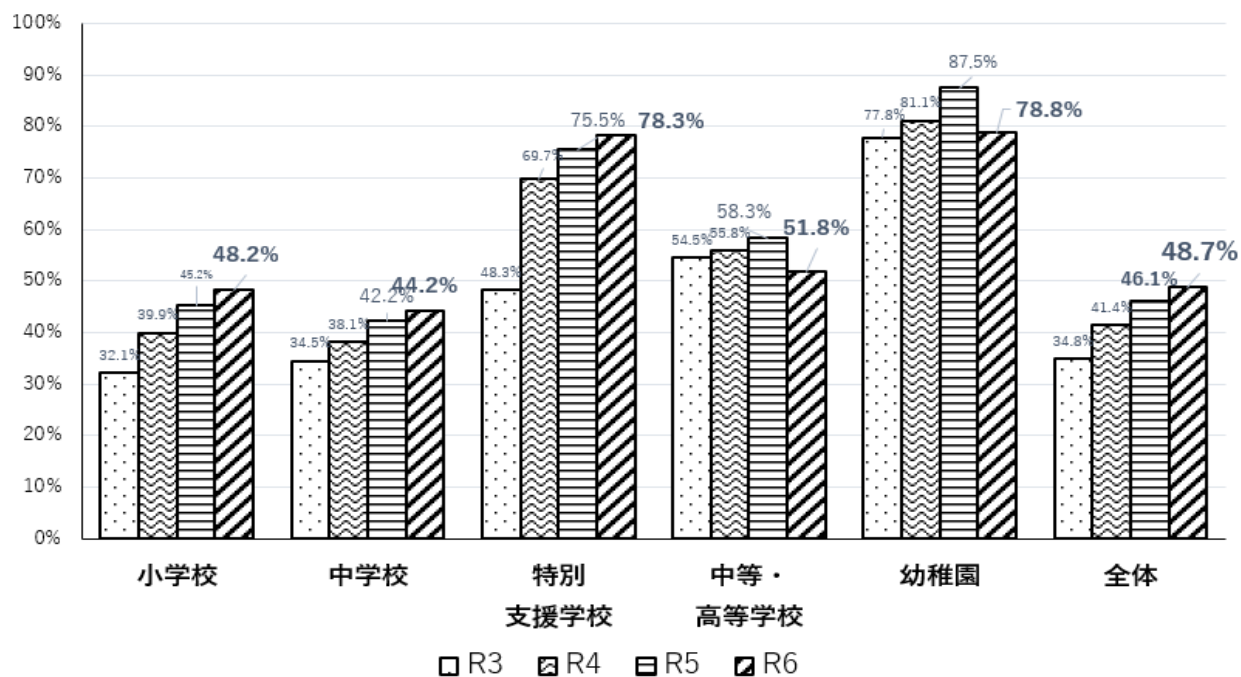
職種別 時間外在校等時間 45 時間以下の割合（4～12月）



全体としては、前年度を上回っており、少しずつではありますが、改善しています。しかしながら、令和7年度を見ると、中等・高等学校で45時間以下の割合が下がっていたり、職種別では教頭、主幹教諭の45時間以下の割合が低いままだったりしています。

< ②について >

校種別 時間外在校等時間 年間 360 時間以下の割合



なお、平均時間外在校等時間は、以下のとおりです。

	R 3	R 4	R 5	R 6
全体	3 7 時間 4 4 分	3 4 時間 1 8 分	3 2 時間 0 8 分	3 1 時間 2 3 分

年間 360 時間以下の割合、平均時間外在校等時間についても、全体としては、前年度を上回っており、少しずつではありますが、改善しています。しかしながら、達成度は 50%以下となっています。

< ③について >

年間 14 日以上 of 年次有給休暇を取得した教職員の割合

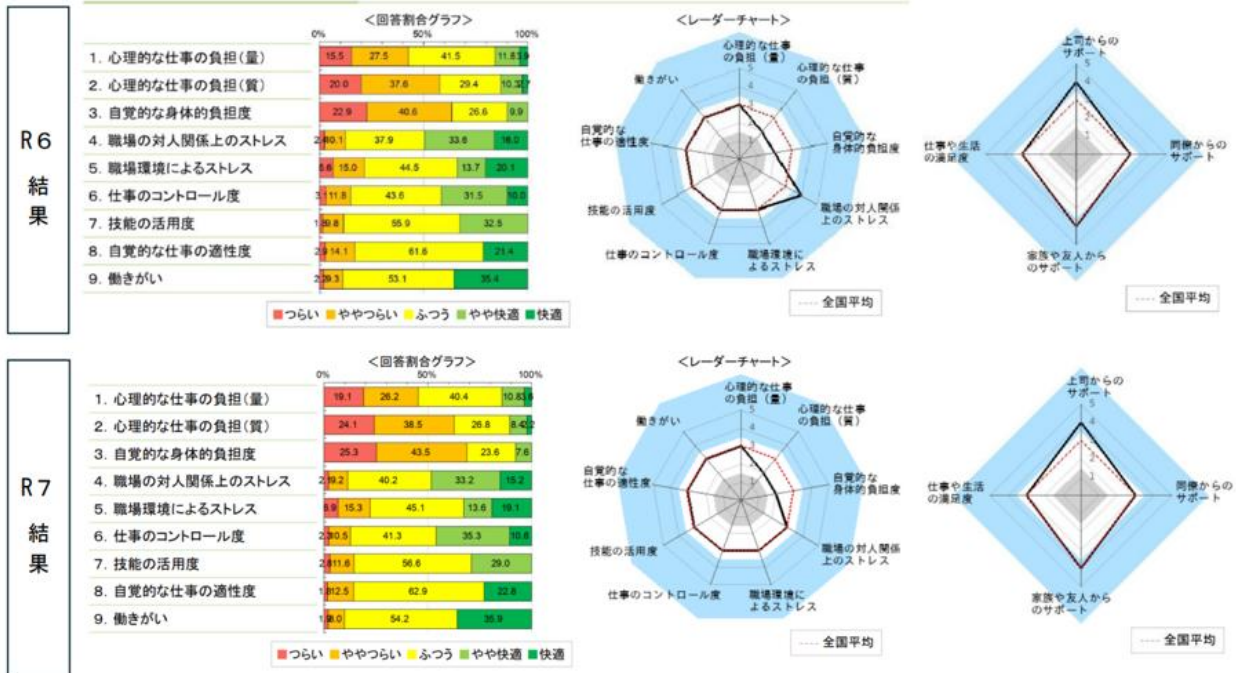
	R 3	R 4	R 5	R 6
全体	6 3 . 0 %	6 8 . 5 %	6 9 . 5 %	6 6 . 6 %

令和 6 年度は、年間 14 日以上 of 年次有給休暇の取得については、割合が下がっています。

< ストレスチェック、教職員勤務実態調査の結果について >

令和6年度および令和7年度 ストレスチェックの結果

ストレスの原因と考えられる因子

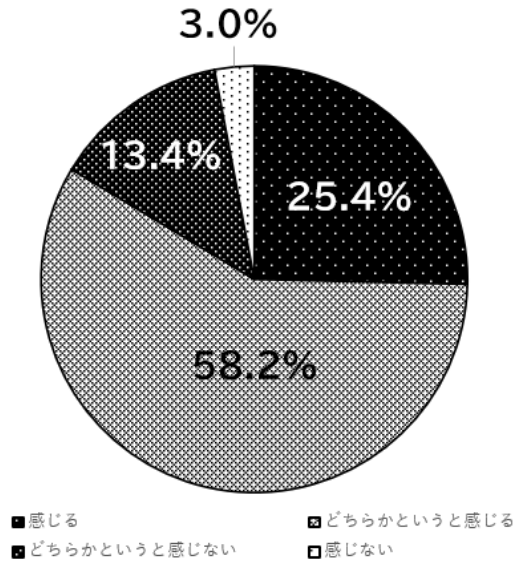


レーダーチャートを見ると、2年間ともに同様の傾向になっており、心理的な負担は大きいですが、上司からのサポートが高くなっています。

回答割合グラフの「8」「9」を見ると、仕事に対して働きがいを感じながら日々の業務に向かっている教職員が、増えてきています。

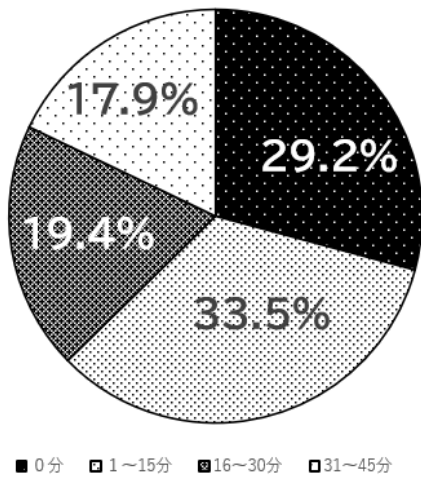
令和7年度 教職員勤務実態調査の結果

充実して仕事に取り組めていると感じている割合

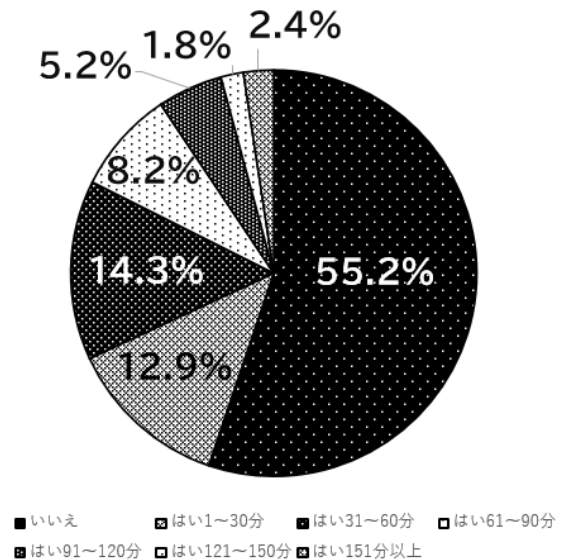


肯定的評価は、83.6% (1,437人) でした。多くの教職員が、充実して仕事に取り組めていると感じています。

実際に休憩した（と思う）時間



平日の持ち帰り仕事時間



休憩した（と思う）時間、持ち帰り仕事時間のグラフを見ると、時間外在校等時間に表れないところで、学校の業務を行っていると感じている教職員が一定数いることがわかります。